
つまり俺の世界には～ひよっこ勇者と魔女の言い分～（連載停止中）

緑僧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

つまり俺の世界には〜ひよっこ勇者と魔女の言い分〜（連載停止中）

【Nコード】

N8719C

【作者名】

緑僧

【あらすじ】

只今作者崩壊ちゅう、落ち着くまでちょっとまってください

よくよく考えたらこの話いらない気がする〜そろそろ始まる物語

サブタイトルの通りです。あと執筆（執筆って言って良いのかな？）が遅れてしまってますいませんでした。

よくよく考えたらこの話いらぬ気がする。そろそろ始まる物語

春の日は温い、寒がりの紫苑には丁度過ぎやすい環境だ。紫苑は屋上に来ていた。この学校の屋上は基本的に開放してある、紫苑にとってみれば嬉しい限りだったりする。

お供は宗佑では無く自家製のお弁当と学食のプリン、正直プリンが買えたのは奇跡に近いと思う、多すぎる生徒に比例しない数少ないデザート、それにこの学校のプリンは手作りで美味しいと評判だった。

タッパに詰めたおかずを一口にほおり込む、
美味い

何時もと変わらぬ自分の味があった。

人数が多いこの学校でも流石に屋上は人が少なくのんびりくつろげる一つの場所となっていた。もりよもりよと口に含んだ食物を咀嚼し飲み込む。紫苑は

「食べる」ことが好きだった。母の手料理は絶品で、いつも素晴らしい味だったような気がする。いつの間にか空になった弁当、脇によけてプリンの蓋を開ける。

「美味し、」

一番落ち着く時間だったりする。

その後も淡々と授業をこなして帰路に着いた、しかしまだやること

が終わった訳では無かった。

5時少し前、出掛けた先は少し遠くの喫茶店。

「こんばんわ。」

「はい、こんばんわ。」

おそらく紫苑が唯一笑顔で挨拶する女性がそこにはいた。篠原 美^{シノハ}月^{ラミツキ}その人である。紫苑のおばさんに当たる人だ。40を越えている筈の年齢と明らかに20代前半にしか見えない美しい外見を持つ女性、世の中の女性を全て敵にまわしそうな人だ。紫苑はこの喫茶店の厨房でアルバイトをしている。喫茶店の客の入りは大層なもので、それが料理の味からくるものなのかウエイトレス目当てなのかは分からないが取り敢えずは繁盛していた。

「じゃあ早速厨房に入ってくれる？」

「はい。」

いつもと変わらぬ会話を交わしキッチンに入るとそこにいたのは大男、鉈にも見える大きな包丁を紫苑に向けて振りかぶっていた。

くよくよく考えたらこの話知らない気がするくそろそろ始まる物語

自分の書くスピードと言ったら…（苦笑）いや、ホントにすいませんでした。

後書いてると自分の語彙力の無さにはびっくりしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8719c/>

つまり俺の世界には～ひよっこ勇者と魔女の言い分～（連載停止中）

2010年11月13日03時44分発行